

長門の浦より舟出する夜に、月の光を仰ぎ観
て作る歌三首

三六二二番

月読の光を清み 夕なぎに 水手の声呼び
浦廻漕ぐかも

三六二三番

山のはに 月傾けば いざりする 海人の燈火
沖になづさふ

三六二四番

我のみや 夜舟は漕ぐと 思へれば 沖辺の方に
梶の音すなり